

平成 22 年度

病害虫発生予報第 5 号

平成 22 年 8 月 26 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ <http://www.mate.pref.mie.jp/boiyosyo/>

目 次

| | ページ |
|-------------------------------|-----|
| 1. 向こう 1 か月の予報と対策 | 1 |
| 2. 作物別の状況 | 2 |
| 3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠 | 6 |
| 4. 予察項目の見方 | 11 |
| 5. 今月のトピックス（外来昆虫オオモボトハムシについて） | 12 |
| 6. 気象のデータ | 13 |
| 7. おしらせ | 15 |

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 作物

イネでは、斑点米カメムシ類、ツマグロヨコバイ、トビイロウンカの発生量は平年並と予想されます。

ダイズでは、吸実性カメムシ類の発生量はやや多と予想されますので、圃場での発生状況に注意してください。ハスモンヨトウの発生量はやや少と予想されます。

2) 果樹

カンキツでは、かいよう病（中晩柑）の発生は多と予想されます。伝染源となる発病果等は除去して、圃場外で処分してください。また、台風の接近等が予想される時は適切に薬剤防除をしてください。ミカンハダニの発生量はやや多と予想されます。圃場によりバラツキがありますが、急増することがある時期なので発生状況をよく観察してください。黒点病、かいよう病（温州みかん）の発生量は平年並、チャノキイロアザミウマの発生量はやや少と予想されます。

果樹共通では、果樹カメムシ類の発生量は多と予想されます。圃場内をよく観察しカンキツ、カキ等での被害発生に注意してください。

3) 茶

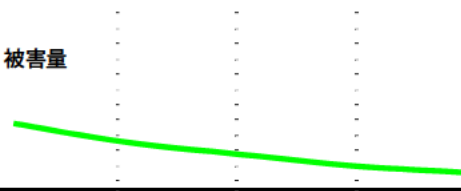
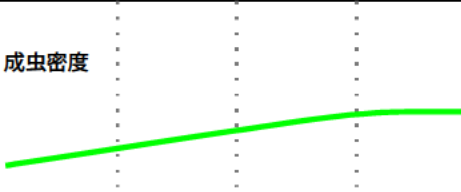
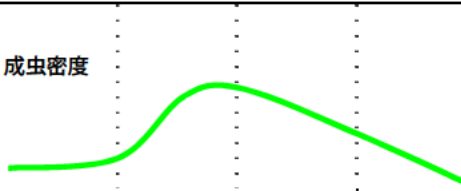
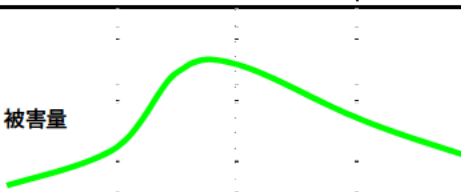
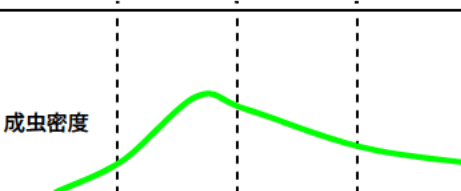
チャでは、カンザワハダニの発生量は平年並、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、クワシロカイガラムシの発生量はやや少、炭疽病、チャノホソガの発生量は少と考えられます。

4) 野菜

イチゴでは、炭疽病の発生量はやや多と予想されます。今後の気象の推移に注意し、降雨後の防除に努めてください。

ネギでは、シロイチモジヨトウの発生量はやや多と予想されます。発生に注意し、若齢幼虫を対象とした防除に努めてください。

2. 作物別の状況

| 作物名 | 病害虫名 | 発生時期 | 発生量 | | 要防除圃場率 | 発生消長の一例 | | | | 防除の注意事項 |
|-------------|----------|------|-----|----|--------|---------|--|----|----|---|
| | | | | | | 8月 | 9月 | | | |
| | | 平年比 | 平年比 | 程度 | 平年比 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | |
| イネ (普通期) | 斑点米カメムシ類 | — | 平年並 | 中 | 普通 | 被害量 |  | | | 1) 周辺圃場で収穫作業がある時は、周辺圃場からの侵入に注意してください。 2) 追加防除する場合は、周辺圃場の収穫状況を考慮してください。 |
| | ツマグロヨコバイ | — | 平年並 | 大 | 低 | 成虫密度 |  | | | 1) 密度が高くないので防除の必要はありません。 |
| | トビイロウンカ | — | 平年並 | 小 | 低 | 成虫密度 |  | | | 1) 今年はトビイロウンカが発生する可能性があるので注意してください。 |
| ダイズ | ハスモンヨトウ | — | やや少 | 中 | 普通 | 被害量 |  | | | 1) 圃場を見回り、白変葉を探してください。 2) 若齢幼虫期に防除してください。 |
| | 吸実性カメムシ類 | — | やや多 | 中 | 普通 | 成虫密度 |  | | | 1) ホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシ等が莢を加害します。 2) 開花終期から莢伸長期に防除してください。 |

| 作物名 | 病害虫名 | 発生時期 | 発生量 | | 要防除圃場率 | 発生消長の一例 | | | | 防除の注意事項 |
|------|-------------|------|-----------------------|------------|------------|---------|----|----|----|--|
| | | | | | | 8月 | 9月 | | | |
| | | | | | | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | |
| カンキツ | 黒点病 | — | 平年並 | 中 | 普通 | | | | | 1) 引き続き感染源となっている枯れ枝の除去に努めてください。 2) 9月は後期感染の時期なので、感染防止に努めてください。 |
| | かいよう病 | — | 温州 平年並 中晩柑 多 | 小 大 | 低 高 | | | | | 1) 引き続き発病果等の除去に努めてください。 2) 防風対策を行うとともに、台風の接近が予想される場合は防除をしてください。 3) 高接樹や幼木については、ミカンハモグリガの防除も実施してください。 |
| | ミカンハダニ | — | やや多 | 中 | 高 | | | | | 1) 急増することがある時期なので、発生状況をよく観察してください。 2) 1葉当たりの雌成虫寄生数が0.5～1.0頭程度を目安に防除してください。 3) 同一系統の薬剤の連用を避けてください。 4) 薬剤防除にあたっては、収穫前日数に注意してください。 |
| | チャノキイロアザミウマ | — | やや少 | 中 | 普通 | | | | | 1) この時期の被害発生部位は果頂部で、果実肥大が緩慢になり被害が判り難くなるため、丁寧な観察が必要です。 2) イヌマキ、サンゴジュ等の防風垣に隣接した樹で、被害が多くなることがあります。 |
| 果樹共通 | カメムシ類 | — | 多 | 大 | 高 | | | | | 1) 例年飛来が多く見られる圃場では、圃場内の観察をきめ細かく行ってください。 2) 大雨、強風などの後に、急に園地へ多数飛来することがあります。カンキツやカキ圃場等の樹園地では、発生状況に十分に注意してください。 3) ナシ、ブドウの有袋栽培では、袋と果実が密着すると、袋の上から加害されることがあるので注意してください。 |

| 作物名 | 病害虫名 | 発生時期 | 発生量 | | 要防除圃場率 | 発生消長の一例 | | | | 防除の注意事項 |
|-----|--------------------|------|-----|---|--------|---------|----|----|----|---|
| | | | | | | 8月 | | 9月 | | |
| | | | | | | 下旬 | 下旬 | 中旬 | 下旬 | |
| チャ | 炭疽病 | — | 少 | 小 | 低 | | | | | 1) 秋芽1葉期ころが防除適期です。 |
| | カンザワハダニ | — | 平年並 | 小 | 普通 | | | | | 1) 圃場によって発生状況が異なるので、葉裏の発生状況に注意して防除してください。 |
| | チャノホソガ (第4世代幼虫) | — | 少 | 小 | 低 | | | | | 1) だらだらと発生しているので、新芽があれば防除してください。 |
| | チャノミドリヒメ ヨコバイ | — | やや少 | 小 | 普通 | | | | | 1) 秋芽の萌芽～開葉初期が防除適期です。 |
| | チャノキイロアザ ミウマ | — | やや少 | 小 | 普通 | | | | | 1) 秋芽の萌芽～開葉初期が防除適期です。 |

| 作物名 | 病害虫名 | 発生時期 | 発生量 | | 要防除圃場率 | 発生消長の一例 | | | | 防除の注意事項 |
|-----|------------|------|-----|---|--------|---------|----|--------|----|--|
| | | | | | | 8月 | | 9月 | | |
| | | | | | | 平年比 | 程度 | 平年比 | 下旬 | |
| チャ | クワシロカイガラムシ | — | やや少 | 小 | 普通 | | | 孵化幼虫密度 | | <ul style="list-style-type: none"> 1) 第3世代幼虫の孵化最盛期は9月上旬と思われます。 2) 発生が多い園では孵化状況を確認して防除してください。 3) 株内に噴口を入れて、枝や幹に十分薬液がかかるように散布してください。 |
| イチゴ | 炭疽病 | — | やや多 | 中 | 普通 | 発病密度 | | | | <ul style="list-style-type: none"> 1) 露地では降雨で拡大します。降雨後は防除に努めてください。 2) 薬剤散布は、株元まで十分かかるようにして、畝やベンチの両側からも散布してください。 3) 灌水はやさしく手灌水かチューブ灌水で、茎葉にはねかえらないよう注意してください。 |
| ネギ | シロイチモジヨトウ | — | やや多 | 中 | 普通 | 成虫密度 | | | | <ul style="list-style-type: none"> 1) 老齢になるに従って薬剤の効果が劣るので、発生に注意し若齢幼虫のうちに防除してください。 2) 同一系統薬剤を連用すると、薬剤抵抗性を獲得しやすいため異なる系統薬剤をローテーション散布してください。 |

3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠

| 作物名 | 病害虫名 | 発生時期 平年比 | 発生量 平年比 | 予察根拠 |
|-------------|----------|-------------|------------|--|
| イネ (普通期) | 斑点米カメムシ類 | - | 平年並 | <p>要因</p> <p>1) 予察灯(6月第1半旬~8月第4半旬)では、クモヘリカメムシ誘殺数は松阪市で9頭(平年6.0頭)と多、伊賀市で18頭(9年平均5.3頭)と多の傾向、紀北町で38頭(9年平均14.6頭)と多の傾向、御浜町で99頭(9年平均126.8頭)とやや少の傾向 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第1週)では、圃場すくい取りによる中型種成幼虫の発生圃場率は、ホソハリカメムシ18.8%(平年20.2%)とやや少、クモヘリカメムシ7.5%(平年7.2%)と平年並、シラホシカメムシ類5.9%(平年9.3%)と少。同調査における成幼虫数はホソハリカメムシ0.31頭(平年0.38頭)と少、クモヘリカメムシ0.16頭(平年0.24頭)と少、シラホシカメムシ類0.08頭(平年0.16頭)と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、少~やや多(概して平年並) (±)</p> <p>考察: 一般圃場の発生状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p> |
| | ツマグロヨコバイ | - | 平年並 | <p>要因</p> <p>1) 予察灯では、誘殺数は松阪市(4月第1半旬~8月第4半旬)で5頭(平年52.3頭)と少、伊賀市(5月第1半旬~8月第4半旬)で775頭(平年626.0頭)とやや多、紀北町(4月第1半旬~8月第4半旬)で105頭(平年14.2頭)と多、御浜町(4月第1半旬~8月第4半旬)で44頭(平年46.2頭)と平年並 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第1週)では、発生圃場率38.8%(平年32.4%)と多、払い落とし成虫数0.4頭(平年2.0頭)と少、同幼虫数1.6頭(平年9.5頭)と少 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、少~平年並(概して平年並) (±)</p> <p>考察: 巡回調査結果および一般圃場の発生状況から、予想発生量は平年並と考えます。</p> |
| | トビイロウンカ | - | 平年並 | <p>要因</p> <p>1) 予察灯では、誘殺数は松阪市(4月第1半旬~8月第4半旬)で0頭(平年3.6頭)とやや少の傾向、伊賀市(5月第1半旬~8月第4半旬)で0頭(平年1.0頭)と平年並の傾向、紀北町(4月第1半旬~8月第4半旬)で0頭(平年0頭)および御浜町(4月第1半旬~8月第4半旬)で0頭(平年0頭)と平年並に少ない傾向 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第1週)では、発生圃場率0%(平年0.7%)とやや少の傾向、払い落とし成虫数0頭(平年0.7頭)とやや少の傾向 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、無~平年並(概して平年並) (±)</p> <p>4) 九州各県での飛来数は、一部を除き、概して平年並 (±)</p> <p>考察: 三重県への多飛来はない状況であり、予想発生量は平年並と考えます。</p> |

| 作物名 | 病害虫名 | 発生時期 平年比 | 発生量 平年比 | 予察根拠 |
|------|----------|-------------|-----------------------|--|
| ダイズ | ハスモンヨトウ | - | やや少 | <p>要因</p> <p>1) 県予察圃フェロモントラップ(松阪市・7月第4半旬~8月第3半旬)では、誘殺数は232頭(平年414.2頭)と少(-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第1週)では、葉食害度0.1%(4年平均0.09%)と平年並の傾向、1a当り白変か所数0か所(平年0.6か所)とやや少の傾向(-)</p> <p>3) 一般圃場では、微~やや多(概してやや少)(-)</p> <p>考察: フェロモントラップ、巡回調査結果および一般圃場の発生状況から、予想発生量はやや少と考えます。</p> |
| | 吸実性カメムシ類 | - | やや多 | <p>要因</p> <p>1) 予察灯(松阪市・8月第1半旬~第3半旬)では、誘殺数はアオクサカメムシ152頭(平年113.4頭)とやや多、イチモンジカメムシ4頭(平年3.3頭)とやや多、クサギカメムシ216頭(平年26.3頭)と多(+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第1週)では、寄生虫数0頭/25株(平年0.1頭/25株)と平年並の傾向(±)</p> <p>3) 一般圃場では、無~平年並(概して平年並)(±)</p> <p>考察: 予察灯を重視して、予想発生量はやや多と考えます。</p> |
| カンキツ | 黒点病 | - | 平年並 | <p>要因</p> <p>1) 県予察圃(8月中旬)では、果実発病度65.2(平年42.7)と多(+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第1週)では、果実発病度は1.4(平年2.8)と少(-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並(±)</p> <p>4) 感染源となる枯れ枝は平年並(±)</p> <p>考察: 一般圃場の状況を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p> |
| | かいよう病 | - | 温州 平年並 中晩柑 多 | <p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月20日発表)によると、気温は高い予想(+)</p> <p>2) 県予察圃(中晩柑・8月中旬)では、発病葉率13.4%(平年12.2%)と平年並、発病果率75.0%(平年37.3%)と多(+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(温州・8月第1週)では、発病葉率0%(9年平均0.1%)、発病果率0%(9年平均0.3%)といずれもやや少の傾向(-)</p> <p>4) 巡回調査圃場(8月第1週)のうち、中晩柑では発病葉率7.2%(9年平均1.1%)、発病果率11.0%(9年平均1.4%)といずれも多の傾向(+)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量は平年並~多(概してやや多)(+)</p> <p>考察: 現状の発生量は温州みかんは平年並、中晩柑類は多と思われる、大きな増減の要因がないので、予想発生量温州みかんは平年並、中晩柑は多と考えます。</p> |

| 作物名 | 病害虫名 | 発生時期 平年比 | 発生量 平年比 | 予察根拠 |
|------|-------------|-------------|------------|--|
| カンキツ | ミカンハダニ | - | やや多 | <p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月20日発表)によると、気温は高い予想 (-)</p> <p>2) 県予察圃(8月中旬)では、100葉当寄生虫数は、無防除区で32.2頭(平年26.0頭)とやや多、防除区で575.6頭(平年33.9頭)と多 (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第1週)では、新葉における平均寄生葉率は23.4%(平年5.0%)、1葉当平均寄生虫数は2.05頭(平年0.13頭)と多 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並~やや多(概してやや多) (+)</p> <p>考察: 現状の発生量は圃場によるばらつきがありますが概してやや多と思われ、大きな増減の要因がないので、予想発生量はやや多と考えます。</p> |
| | チャノキイロアザミウマ | - | やや少 | <p>要因</p> <p>1) 県予察圃粘着トラップ(8月中旬)では、誘殺数は9.5頭(平年13.0頭)とやや少 (-)</p> <p>2) 県予察圃(8月中旬)では、100果あたり寄生虫数は10.8頭(平年30.1頭)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第1週)では、被害果率は2.3%(平年2.9%)とやや少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや少と思われ、大きな増減の要因がないので、予想発生量はやや少と考えます。</p> |
| 果樹共通 | カメムシ類 | - | 多 | <p>要因</p> <p>1) 予察灯(御浜町:8月1日~8月10日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ4,204頭(平年182頭)と多、ツヤアオカメムシ56頭(平年19頭)と多 (+)</p> <p>2) 予察灯(畑・松阪市:7月16日~8月15日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ3,114頭(平年329頭)と多、ツヤアオカメムシ330頭(平年48頭)と多、クサギカメムシ1,422頭(平年79頭)と多 (+)</p> <p>3) フェロモントラップ(7月17日~8月16日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は、山地(津市白山町川口)で4,126頭(平年1,126頭)と多、中間地(津市白山町二本木)で7,808頭(平年2,126頭)と多、平坦地(松阪市嬉野川北町)で1,754頭(平年419頭)と多 (+)</p> <p>4) 巡回調査圃場(8月第1週)では、圃場への飛来は未確認 (-)</p> <p>5) 一般圃場では、平年並~やや多(概してやや多) (+)</p> <p>考察: 現状の発生量は多く、予想発生量は多と考えます。</p> |
| チャ | 炭疽病 | - | 少 | <p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月20日)によると、向こう1か月の気温は高い予想 (-)</p> <p>2) 県予察圃(8月5日)では、三番茶の発病葉数は0枚/m²(平年1.44枚/m²)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月第1週)では、発病葉数は0.9枚/m²(平年1.52枚/m²)と少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察: 現状の発生量は少と考えられ、大きな増加要因は考えられないので、予想発生量は少と考えます。</p> |

| 作物名 | 病害虫名 | 発生時期 平年比 | 発生量 平年比 | 予察根拠 |
|-----|--------------------|-------------|------------|--|
| チャ | カンザワハダニ | - | 平年並 | <p>要因</p> <p>1) 1 か月予報 (8月20日) によると、向こう1か月の気温は高い予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃 (8月5日) では、寄生葉率は0.5% (平年5.1%) と少、寄生頭数は0.01 頭 / m² (平年0.30 頭 / m²) と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場 (8月第1週) では、寄生葉率は1.50% (平年1.41%) と平年並、寄生頭数は、0.0003 頭 / 葉 (平年0.41 頭 / 葉) とやや少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや多 (+)</p> <p>考察： 現状の発生量はやや少と考えられますが、気象要因を考慮して予想発生量は平年並と考えます。</p> |
| | チャノホソガ (第4世代幼虫) | - | 少 | <p>要因</p> <p>1) 県予察圃フェロモントラップ (7月第6半旬~8月第1半旬) では、誘殺数は75.0 頭 (平年531.2 頭) と少 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場 (8月第1週) では、巻葉数は0.3 枚 / m² (平年2.9 枚 / m²) と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや少 (-)</p> <p>考察：現状の発生量は少発生と考えられ、大きな増減の要因がないので、予想発生量は少と考えます。</p> |
| | チャノミドリヒメ ヨコバイ | - | やや少 | <p>要因</p> <p>1) 県予察圃粘着吸引トラップ (7月第6半旬~8月第1半旬) では、誘殺数は9.0 頭 (平年6.0 頭) と多 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場 (8月第1週) では、たたき落とし虫数は0.5 頭 (平年0.66 頭) と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや少 (-)</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と考えられ、大きな増減の要因はないので、予想発生量はやや少と考えます。</p> |
| | チャノキイロアザ ミウマ | - | やや少 | <p>要因</p> <p>1) 県予察圃粘着吸引トラップ (7月第6半旬~8月第1半旬) では、捕殺数は4433 頭 (平年1238 頭) と多 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場 (8月第1週) では、たたき落とし虫数は4.3 頭 (平年7.6 頭) と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや少 (-)</p> <p>考察：現状発生量は平年並と考えられ、大きな増減の要因はないので、予想発生量はやや少と考えます。</p> |
| | クワシロカイガラムシ | - | やや少 | <p>要因</p> <p>1) 巡回調査圃場 (8月第1週) では、雌成虫寄生株率は7.7% (平年7.0%) と平年並 (±)</p> <p>2) 一般圃場では、発生量はやや少 (-)</p> <p>考察： 現状の発生量はやや少と考えられ、大きな増減の要因はないので、予想発生量はやや少と考えます。</p> |

| 作物名 | 病害虫名 | 発生時期 平年比 | 発生量 平年比 | 予察根拠 |
|-----|-----------|-------------|------------|--|
| イチゴ | 炭疽病 | - | やや多 | <p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月20日発表)によると、気温は高い予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第1週)では、発病株率は1.0%(平年0.7%)とやや多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並~やや多(概してやや多) (+)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや多と思われ、感染に好適な気温となることを考慮して、予想発生量は引き続きやや多と考えます。</p> |
| ネギ | シロイチモジヨトウ | - | やや多 | <p>要因</p> <p>1) フェロモントラップ(松阪市嬉野川北町)の成虫誘殺数(7月16日~8月15日)は76頭(平年46.9頭)と多 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第1週)では、被害葉率は3.5%(平年1.7%)と多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや少~平年並(概して平年並) (±)</p> <p>考察: 現在の発生量は平年並と思われませんが、フェロモントラップの成虫誘殺数と巡回調査圃場での被害状況を重視して、予想発生量はやや多と考えます。</p> |

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期（平年比）： 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

| | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|-----|----|-----|----|----|-----------|-----|---|---|---|---|---|
| 日数 | -6 | -5 | -4 | -3 | -2 | -1 | 平年 発生日 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 評価 | 早 | やや早 | | 平年並 | | | | やや遅 | | 遅 | | | |

発生量（平年比）： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

| | | | | | | |
|----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 平年値 ↓ | | | | | |
| 度数 | 10% | 20% | 20% | 20% | 20% | 10% |
| 評価 | 少 | やや少 | 平年並 | | やや多 | 多 |

発生量（程度）： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よ

りやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 小 | 中 | 大 | 甚 |
|---|---|---|---|

要防除圃場率（平年比）： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていれればよいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

| | | |
|---|----|---|
| 低 | 普通 | 高 |
|---|----|---|

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

（±）：平年並の要因

（+）：発生量増加または発生時期遅延の要因

（-）：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のトピックス「外来昆虫オオモモブトハムシについて」

1 外来の虫が見つかりました

熱帯（インド、東南アジア、スマトラなど）にいるオオモモブトハムシが、なんと松阪市で2009年に発見されました。河川敷の荒地で見つかり（図1）松阪市周辺で飛び地的に生息地が拡大しています。

体の長さが2cmほどもある、後足が太くて長いハムシの仲間です。濃い赤紫色の光沢があり、見る方向によってかすかに緑色に光ります（図2）。



図1 採集場所（クズの密生した河川敷）



図2 成虫



図3 幼虫がもぐって肥大したクズの茎



図4 茎内の幼虫（8月18日撮影）

2 生態は

日本では今のところクズでしか確認されていません。

幼虫はクズの茎に潜って食害します（図3、4）。成虫は6月から8月にかけて発見されていますが、何を食べているのかよくわかりません。年間1世代のようです。

加害されたクズの茎は肥大し、その中で幼虫のまま越冬します。そのため、クズ以外の餌があっても、日本では越冬できる植物が限定されると思われます。

表1 外国で加害が記録された植物

| |
|---|
| 多種の豆類（インゲンマメ、ソラマメ、フジマメなど） ヤマノイモ、サツマイモの仲間、カボチャの仲間、カンキツの仲間 トビカズラの仲間、アブラギリの仲間、センダンの仲間、など |
|---|

3 何が問題なのでしょう

そもそも植物防疫法に違反して密輸され、野生化したのではないかと考えられます。

これまで日本にいなかった外来生物は在来の生物に害を及ぼすなど、環境に悪い影響を与えるおそれがあるので、野生化させてはいけません。農業の立場では、何らかの作物の害虫になったりすると大変です。

4 お願い

防除所では、松阪市周辺において農作物に被害があるかどうかを調べています。農作物でこの虫を発見した場合は、たまたま圃場に飛び込んできただけかもしれませんが、できれば加害しているかどうかを観察したうえで防除所にお知らせください。加害の有無がわからなければ、どの作物で見つけたか、だけでも結構です。

6. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報 (平成 22 年 8 月 20 日 名古屋地方気象台発表)

東海地方の向こう 1 か月は、平年と同様に、期間の前半は高気圧に覆われて晴れる日が多く、後半は天気は数日の周期で変わる見込みです。期間の前半を中心に、日本の南で高気圧が強く、気温の高い状態が続く見込みです。

| | | |
|--------------------------|--|-------------------|
| 1 週目 8 月 21 日～27 日 | 期間の中頃にかけて高気圧に覆われて概ね晴れますが、期間の終わりは、湿った空気の影響で曇るでしょう | 晴れ日数の平年値 約 4 日 |
| 2 週目 7 月 28 日～8 月 3 日 | 平年と同様に高気圧に覆われて晴れる日が多いでしょう | 同 約 5 日 |
| 3～4 週目 8 月 4 日～17 日 | 天気は数日の周期で変わるでしょう | 同 約 7 日 |

東海地方週間天気予報 (平成 22 年 8 月 25 日 11 時 名古屋地方気象台発表)

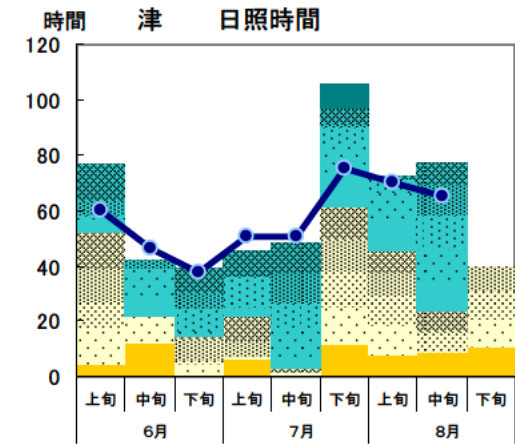
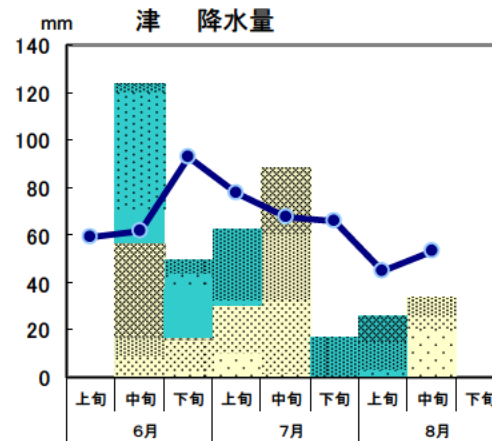
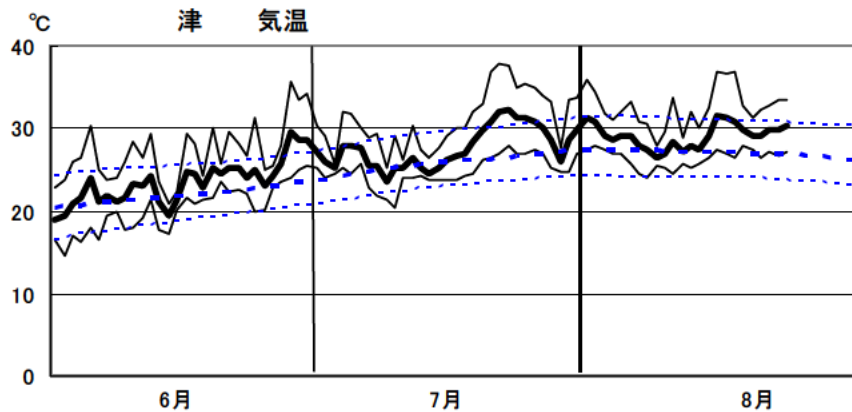
予報期間 8 月 26 日～9 月 1 日

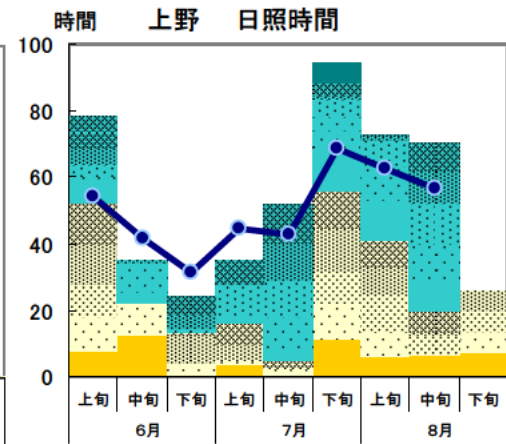
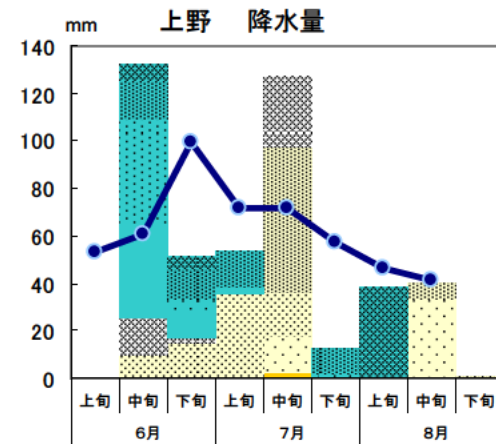
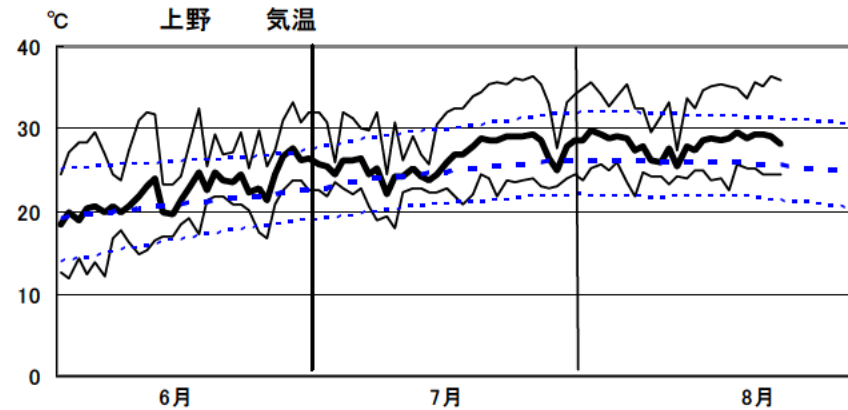
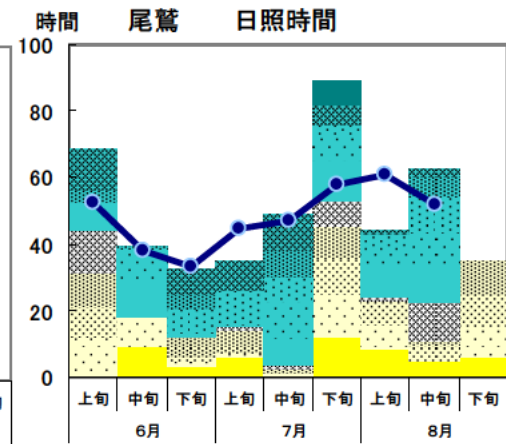
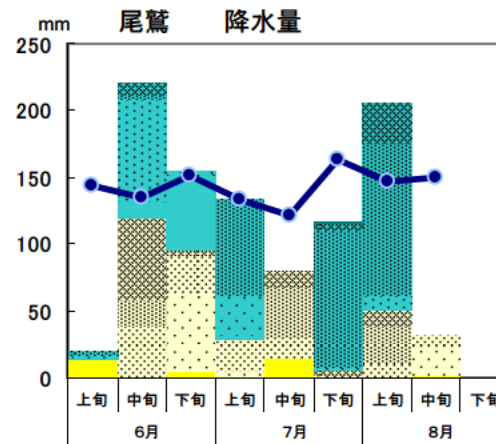
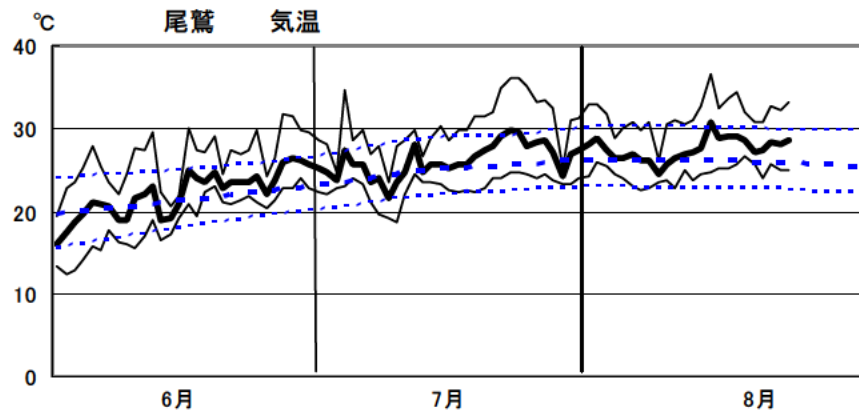
向こう一週間は、高気圧に覆われて概ね晴れますが、湿った空気の影響で雲が広がる所もあるでしょう。

最高気温は、平年より高い見込みです。最低気温は、平年より高く、かなり高い所もあるでしょう。

降水量は、平年より少ない見込みです。

気象の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (8 月 24 日まで)





凡例

- 平均
- 最高
- 最低
- - - 年平均
- - - 年最高
- - - 年最低

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平均値

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平均値

7. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

1) 記載基準の注意点

本年度から、平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

- 第1回 4月22日(済み) 第2回 5月27日(済み)
- 第3回 6月24日(済み) 第4回 7月22日(済み)
- 第5回 8月26日(今回) 第6回 10月21日(木)
- 第7回 3月17日(木)

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。

http://www.mate.pref.mie.jp/Bojyosyo/files/h22yohotebiki_.pdf

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報」

<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>